中部経済新聞　２０２５年５月７日（水）に掲載

独創的な新入社員教育展開

自動車部品製造のアイコクアルファ

手を使い「削る」原点学ぶ

自動車部品製造のアイコクアルファ（本社稲沢市祖父江町、樋田克史社長）は、独創的な新入社員教育に取り組んでいる。新入社員自らが手を使い、「削る」原点を学ぶ内容だ。同社は高度な切削加工の生産技術を駆使し、航空機部品などを生産している。将来的に切削加工の一段のレベルアップにつなげる狙いだ。

（勝又佑記）

新入社員研修に鉛筆削りなどを取り入れている

真剣な表情で鉛筆を削る新入社員―。実は、アイコクアルファの新入社員研修の一こまだ。

航空機部品などを生産しているＡＰ事業部では、新入社員研修に加工の原点を学ぶ内容を取り入れている。鉛筆削りを通じ、削ることを体感してもらう。さらにアルミやチタンの材料をのこぎりで切る作業の体験、汎用のフライス盤の操作なども行う。

原点を学ぶのは、新入社員の職場配属後に切削加工そのものへの理解を深める機会が限られているからだ。配属後は機械の操作や保全、ロボットのレイアウト設計など細分化された業務を担当するケースが多い。

一方、同事業部では航空機部品やターボチャージャー（過給機）部品などを手掛け、常に先端的な切削加工のノウハウが求められる。入社直後に削る原点を学ぶことで、その後の日常的な業務の改善、レベルアップにつなげてもらう狙いがある。

ＡＰ事業部の坂井紀夫チーフマネージャーは「事業部全体で『一流の加工屋』を目指している。多くの従業員が加工について理解することが大事」と話している。

２０２５年０５月０７日　００３面　０１版　Ｎｏ．０１